

算数科学習指導略案

2年2組 24名 指導者 柳 崎 鉄 兵
池 元 雅 規

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 日常生活に即した学習課題を提示することで、子どもの学習意欲を向上させ、問題意識をもたせることができたか。
- 子どもが自力解決したり、考えを交流したりする場面で、主体的に学習を進めるために、チーム・ティーチングによるかかわり方は、効果的であったか。

1 題 材 たし算のひっ算

2 指導計画（総時数13時間）

小題材	主 な 学 習 活 動 【評価規準の重点観点】	時間
2けたのたし算⑤	1 繰り上がりのない2位数同士のたし算について考える。 【関：ブロック操作から、位を縦にそろえて書く筆算のしかたを考えようとしている。】	1
	2 (2位数) + (1位数)、また、その逆の筆算の仕方が分かる。 【知：筆算は、位をそろえて書き、同じ位同士で計算することを理解している。】	1
	3 (2位数) + (2位数) の繰り上がりの意味について考える。 【考：繰り上がるときの筆算の書き方や計算の順序を考えている。】	1
	4 (2位数) + (2位数) の繰り上がりのある筆算を練習する。 【技：繰り上がりのある計算が筆算でできる。】	1
	5 (2位数) + (1, 2位数) の繰り上がりのある筆算の仕方を考える。また、既習事項を確認する。 【知：空位の意味や、位をそろえて書き表さなければならないことを理解している。】	1
した答えになる3けた	6 百の位に繰り上がる計算の仕方を、ブロック操作などを通して考える。 【考：百の位に繰り上がって答えが3位数になる筆算の仕組みを考えている。】	1
	7 (2位数) + (2位数) で百の位と一の位に繰り上がる筆算の仕方を考える。 【考：十の位に繰り上がって、百の位に繰り上がりが波及する筆算の仕組みを説明している。】	1
たし算②	8 (何百) + (何百) の計算の仕方や和が1000になる計算の仕方を考える。 【知：百を単位として計算できることや、1000になる計算の仕方を理解している。】	1
	9 (3位数) + (1, 2位数) の計算の仕方を考える。 【技：(3位数) + (1, 2位数)で、正しく筆算に書き表して、計算できる。】	1
きまりのたし算②	10 加法では、被加数と加数を入れ替えて、たしても答えが同じになることについて考える。 【知：加法の交換法則と、それを使って答えを確かめられることを理解している。】	1 (本時)
	11 3口のたし算では、たす順序を変えても答えが同じになることを知る。 【知：加法の結合法則が分かり、先に計算する場合には、() を使うことを理解している。】	1
練習⑥	12 学習のまとめ、練習問題をする。 【技：進んで題材を振り返ることができる。】	1
	13 既習事項の確かめをする。 【技：練習問題を解いたり、応用問題を解いたりすることができる。】	1

3 本 時 (10/13時間)

(1) 目 標

加法では、被加数と加数を入れ替えて計算しても答えは同じになることに気付くことができるようにする。

(2) 評価規準

加法の交換法則と、それを使って答えを確かめられることを理解している。

【数量や図形についての知識・理解】

(3) 指導に当たって

「つかむ」段階では、子どもが「やってみよう」という学習意欲を向上することができるように、絵や図を用いた学習課題を提示する。また、「たされる数」・「たす数」という言葉の説明も行い、本時がたし算のきまりに関する学習であることを見通すことができるようにする。

「見通す」過程では、操作活動を通して、既習の筆算の仕方を想起し、問題解決のための方法への見通しをもてるように「ちょこっとヒント」を話し合う。

「見つける」段階では、一人で $38 + 16$, $16 + 38$ を筆算し、答えを確かめることができるようにする。その際は、T・Tで、分担しながら個別指導を行っていく。次に、グループ学習で友だちと答えを確かめ合う場を設定し、たし算のきまりに気付くことができるようにする。

「磨き合う」段階では、グループ学習でまとめられた考えや意見を出し合い、交換法則が成り立つことを説明したり、他の式でも交換法則が成り立つことを確かめたりする活動を行い、交換法則への理解を深めることができるようにする。

「振り返る」段階では、学習したことを定着させるために問題に取り組ませる。

過程	時間	形態	主な学習活動と指導の手立て・評価	教材等
つかむ・見通す	9	みんなで	1 学習課題を受け止め、解決の見通しを話し合う。 いちごが、はこの中に38こ、ざるの中に16こあります。いちごは、あわせて何こあるでしょうか。 ① はこ←ざる $38+16$ ② ざる←はこ $16+38$ 〔 ・①も②も答えは同じになりそうだ。 ・たし算の前と後ろが入れ替わっているぞ。〕 2 学習問題をつかむ。 たし算には、どんなきまりがあるのだろうか。 キーワード……たされる数・たす数	司会者カード ノート
			3 $38+16$, $16+38$を計算する。 〔 ・$38+16$も$16+38$も答えは同じだぞ。 ・本当にそうなるのかな？ 〕 4 ペアで、具体物を使って、計算した通りになるか確かめる。 〔 ・間違えないように数えよう。 ・ブロックで確かめても、答えは同じになったぞ。 ・たし算のきまりが分かったぞ。 〕	※ 加法の交換法則と、それを使って答えを確かめられることを理解している。 (発表, 説明, ノート) ○ 解決できている子どもには、たし算のきまりを言葉で説明できるように考えさせる。 ○ 解決できていない子どもには、筆算の仕方を想起して、考えるよう声を掛ける。
見つける	5	一人で		司会者カード
		ペアで		ノート
磨き合う	16	みんなで	5 計算と具体物を操作した結果から、たし算のきまりについて話し合う。 〔 ・計算してもブロックで確かめても、答え同じになったぞ。 ・どうも、たされる数とたす数を入れ替えても答えは同じになるようだ。 〕 6 他の式でたし算のきまりを確かめる。 7 教師から学習のポイントを聞く。 8 学習のまとめをする。 たし算では、たされる数とたす数を入れかえても、答えは同じです。	司会者カード
			9 P54ページ 2 の問題をする。 10 本時の学習を振り返る。	子どもが気付いたことに補説を加え、新たな知識や技能、よりよい解決の方法などを教授し、一般化を図る。 子どもがノートにまとめをしっかりと書けるよう指導を行う。 定着を図ることができるよう練習問題を行う。
振り返る	10	みんなで		ホワイトボード ノート教科書ノート